

令和 3 年

火災・救急・救助統計

瀬戸市消防本部

火災

出火件数は19件で、昨年と比べ6件減少し、現在の方法で統計を取り始めた昭和46年以降で、最も火災件数の少ない年でした。

火災種別で見ますと、建物火災が7件、林野火災が1件、その他火災が11件でした。

火災による死者数は昨年に続き0人でした。また、負傷者数は4人で、火災種別で見ますと、建物火災が3人、その他火災が1人となっています。

出火件数の19件を出火原因別で見ますと、「たき火」が4件(21.1%)と最も多く、続いて「放火・放火の疑い」が2件(10.5%)、「たばこ」「ストーブ」「こんろ」「排気管」「取灰」が各1件(5.3%)の順となっています。

出火件数が多い連区は、水野連区が5件(26.3%)、菱野連区4件(21.0%)、本地連区2件(10.5%)、古瀬戸連区、祖母懐連区、陶原連区、效範連区、西陵連区、品野連区、下品野連区、山口連区が各1件(5.2%)の順となっています。

火災の傾向としては、建物火災、林野火災、車両火災は減少し、その他火災が増加する結果となりました。

1 火災発生状況

全火災19件を月別にみますと、次表のとおりです。

区分 月別	出火件数						焼損 棟数	焼損面積		損害額 (千円)	死傷者(人)		
	計	建物	住宅	林野	車両	その他		建物(m ²)	林野(a)		死者	住宅	負傷者
1月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
2月	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
3月	6	4	3	0	0	2	4	8	0	725	0	0	3
4月	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6月	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	11	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	2	2	0	0	0	0	2	0	0	236	0	0	0
11月	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
12月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	319	0	0	0
合計	19	7	4	1	0	11	7	8	2	1,291	0	0	4
令和2年	25	11	10	2	4	8	16	465	1	24,727	0	0	7

※その他火災とは、建物・林野・車両・船舶及び航空機の各火災種別に該当しない火災

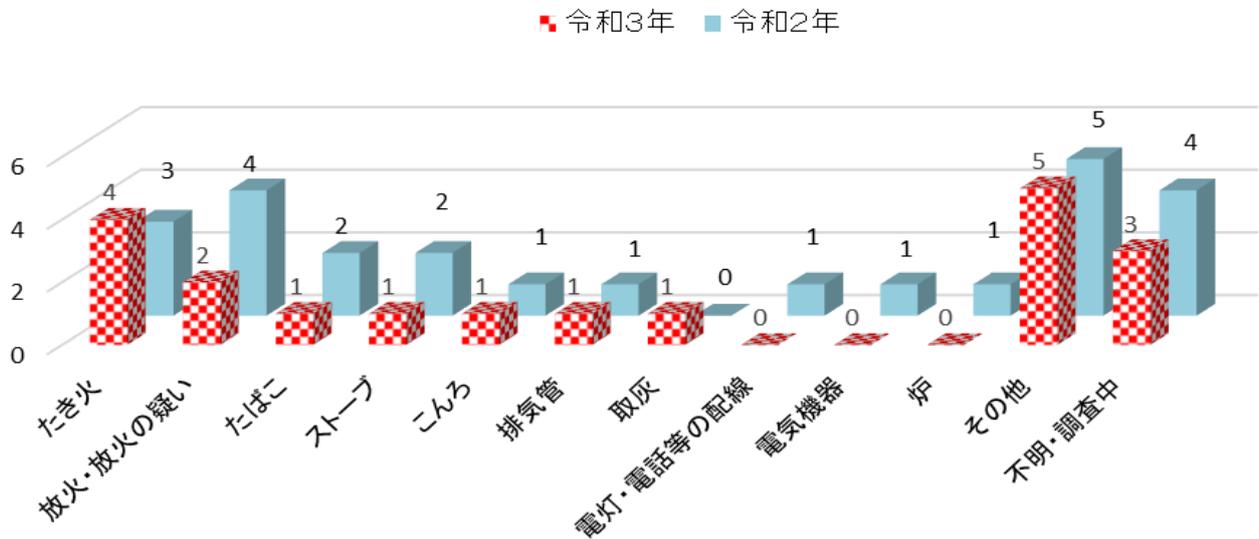
2 連区別火災発生状況

全火災 19 件を連区別にみますと、次表のとおりです。

連区別 区分	計	道 泉	深 川	古 瀬 戸	東 明	祖 母 懐	陶 原	長 根	效 範	水 南	水 野	西 陵	原 山 台	萩 山 台	八 幡 台	品 野	下 品 野	山 口	本 地	菱 野	新 郷
建 物	7	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0
林 野	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車 両	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	11	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0	3	0
合計	19	0	0	1	0	1	1	0	1	0	5	1	0	0	0	1	1	1	2	4	0

3 出火原因別火災発生状況

全火災 19 件を出火原因別にみますと、グラフのとおりです。



4 初期消火の実施状況

全火災 19 件を初期消火別にみますと、次表のとおりです。

火災種別 区分	火災件数 (A)	初期消火 実施件数 (B)	初 期 消 火 の 種 類				実施率(%) (B)/(A)	令和元年 実施率(%)
			消火器	水バケツ	水道水・ 汲み置き水等	その他		
建物火災	7	6	1	1	4	0	85.7	63.6
林野火災	1	1	0	0	1	0	100.0	50.0
車両火災	0	0	0	0	0	0	0.0	75.0
その他火災	11	7	0	2	2	3	63.6	87.5
合 計	19	14	1	3	7	3	73.7	72.0

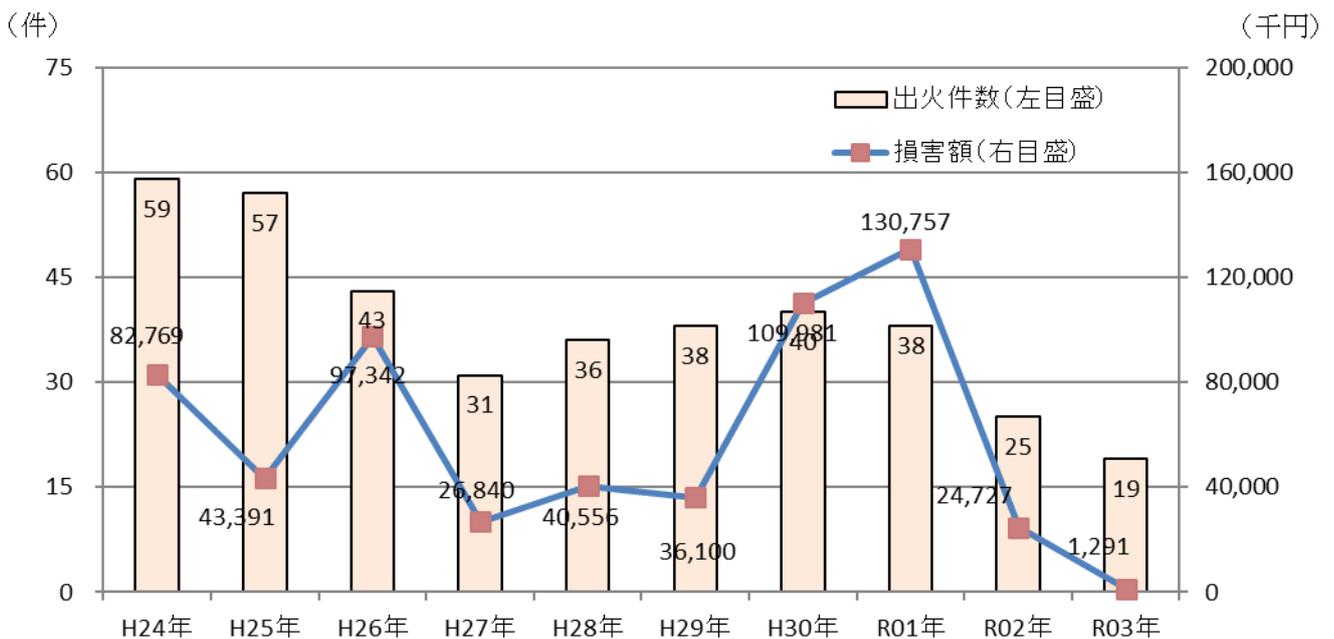
5 過去10年間の火災の推移

過去10年間の火災の状況をみますと、次表のとおりです。

区 分 年 別	出 火 件 数						焼 損 面 積		死 傷 者 数(人)		損 害 額 (千円)
	計	建物	住宅	林野	車両	その他	建物 (㎡)	林野 (a)	死者	負傷者	
平成24年	59	19	7	6	9	25	1,125	53	2	5	82,769
平成25年	57	21	13	9	4	23	498	79	1	8	43,391
平成26年	43	16	12	6	7	14	773	15	1	6	97,342
平成27年	31	15	8	2	2	12	334	47	1	6	26,840
平成28年	36	18	12	0	2	16	364	0	0	5	40,556
平成29年	38	20	15	2	3	13	433	3	0	4	36,100
平成30年	40	14	8	1	5	20	800	19	2	4	109,981
令和元年	38	20	9	0	3	15	1,230	0	0	9	130,757
令和2年	25	11	10	2	4	8	465	1	0	7	24,727
令和3年	19	7	4	1	0	11	8	2	0	4	1,291

6 過去10年間の出火件数と損害額の推移

過去10年間の出火件数と損害額の状況をみますと、次表のとおりです。



救急

救急出動件数は 5,337 件で、昨年と比べ 354 件増加しました。

救急出動件数のうち、事故種別で見ますと、急病が 3,671 件 (68.8%)、一般負傷が 821 件 (15.4%)、交通事故が 331 件 (6.2%) となっており、一月平均は約 445 件、一日平均は約 15 件でした。

救急搬送人員は 4,993 人で、そのうち死亡、重症及び中等症を合わせた傷病者の割合は全体の 46.3%、軽症の割合は 53.7% でした。

年齢区別の搬送人員で見ますと、高齢者が 3,282 人で全体の 65.7% でした。

また、「急病」のうち高齢者の占める割合は 69.2% で、「一般負傷」での割合は 77.2% でした。

1 救急発生状況

全救急出動件数を月別にみますと、次表のとおりです。

区分 月別	計	火 災	自然 災害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	そ の 他
1 月	470	1	0	0	26	3	1	70	3	3	322	30	11
2 月	372	0	0	0	19	4	1	67	2	1	246	27	5
3 月	426	3	0	0	26	3	2	72	0	3	283	32	2
4 月	432	0	0	0	32	5	2	64	0	2	297	21	9
5 月	432	0	0	0	32	6	4	55	0	1	305	21	8
6 月	424	0	0	0	24	4	2	61	0	2	305	23	3
7 月	471	0	0	0	28	6	8	60	0	3	337	21	8
8 月	474	0	0	0	32	4	3	67	2	1	320	31	14
9 月	366	0	0	0	17	4	1	60	0	2	255	22	5
10 月	454	0	0	0	20	5	4	87	3	3	307	20	5
11 月	476	0	0	0	33	3	1	68	3	2	323	39	4
12 月	540	0	0	0	42	6	4	90	1	0	371	20	6
合計	5,337 (4,993)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	331 (320)	53 (51)	33 (32)	821 (790)	14 (8)	23 (13)	3,671 (3,473)	307 (302)	80 (1)
令和 2 年	4,983 (4,712)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	275 (265)	37 (36)	30 (27)	803 (785)	16 (14)	30 (17)	3,484 (3,327)	237 (237)	66 (0)

【備考】() 内は、救急搬送人員を示す。

2 連区別救急搬送人員

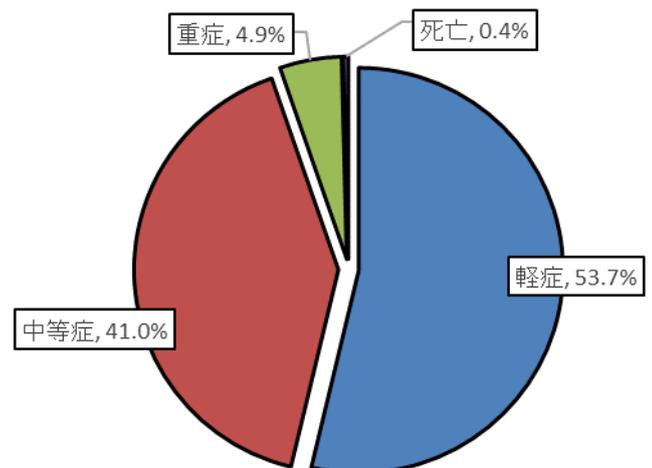
全搬送人員を連区別にみますと、次表のとおりです。

項目	急病	一般	交通	その他	計
道 泉	107	28	4	4	143
深 川	92	17	10	2	121
古瀬戸	141	29	11	1	182
東 明	91	26	19	4	140
祖母懐	60	28	3	7	98
陶 原	219	57	30	22	328
長 根	266	43	28	23	360
效 範	390	83	38	57	568
水 南	232	61	16	95	404
水 野	266	57	34	31	388
西 陵	168	36	8	9	221
原山台	164	36	6	10	216
萩山台	117	30	0	2	149
八幡台	145	26	4	2	177
品 野	134	36	11	16	197
下品野	209	49	6	6	270
山 口	216	44	23	36	319
本 地	156	36	27	15	234
菱 野	135	25	18	13	191
新 郷	152	39	19	25	235
管区外	13	4	5	30	52
合 計	3,473	790	320	410	4,993

3 傷病程度別搬送人員

全搬送人員を傷病程度別にみますと、次表のとおりです。

程 度 別	搬送人員
死亡	20
重症(3週間以上入院)	245
中等症	2,045
軽症(入院なし)	2,683
合 計	4,993



4 年齢区分別搬送人員

全搬送人員を年齢区分別にみますと、次表のとおりです。

事故種別 年齢区分	急病	一般負傷	交通事故	その他	計
新生児 (構成比:%)	3 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	33 (8.0)	36 (0.7)
乳幼児 (構成比:%)	107 (3.1)	35 (4.4)	8 (2.5)	17 (4.1)	167 (3.3)
少年 (構成比:%)	95 (2.7)	20 (2.5)	38 (11.9)	27 (6.6)	180 (3.6)
成人 (構成比:%)	863 (24.8)	125 (15.8)	181 (56.6)	159 (38.8)	1,328 (26.6)
高齢者 (構成比:%)	2,405 (69.2)	610 (77.2)	93 (29.1)	174 (42.4)	3,282 (65.7)
合計 (構成比:%)	3,473 (100.0)	790 (100.0)	320 (100.0)	410 (100.0)	4,993 (100.0)

【備考】年齢区分は次によっている。

- 1 新生児 生後28日未満の者 2 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
3 少年 満7歳以上満18歳未満の者 4 成人 満18歳以上満65歳未満の者
5 高齢者 満65歳以上の者

※端数処理(四捨五入)のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合があります。

5 救命率の推移

救命率の推移は、次表のとおりです。

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
瀬戸市	16.7	40.0	0.0	66.7	0.0
愛知県	28.2	31.8	32.6	27.2	
全国	24.1	25.1	25.5	23.0	

【備考】救命率とは、①目撃のある突然心肺停止である、②AEDが使用できる心電図波形(VF・VT)である救急患者を救急搬送し、1か月後に社会復帰できた割合をいう。

3年中の愛知県・全国の「救命率」は令和4年1月現在未発表

6 バイスタンダーCPR実施状況

バイスタンダーCPRの実施状況は、次表のとおりです。

項目	平成29年			平成30年			令和元年			令和2年			令和3年			
	発生 件数	実施 件数	実施率 (%)													
目撃	あり	51	22	43.1	57	31	54.4	55	28	50.9	59	28	47.5	46	22	47.8
	なし	85	59	69.4	69	48	69.6	86	47	54.7	51	32	62.7	75	46	61.3
合計	136	81	59.6	126	79	62.7	141	75	53.2	110	60	54.5	121	68	56.2	

【備考】バイスタンダーCPRとは「救急現場に居合わせた人が行う心肺蘇生法」をいう。

7 救急出動件数の推移

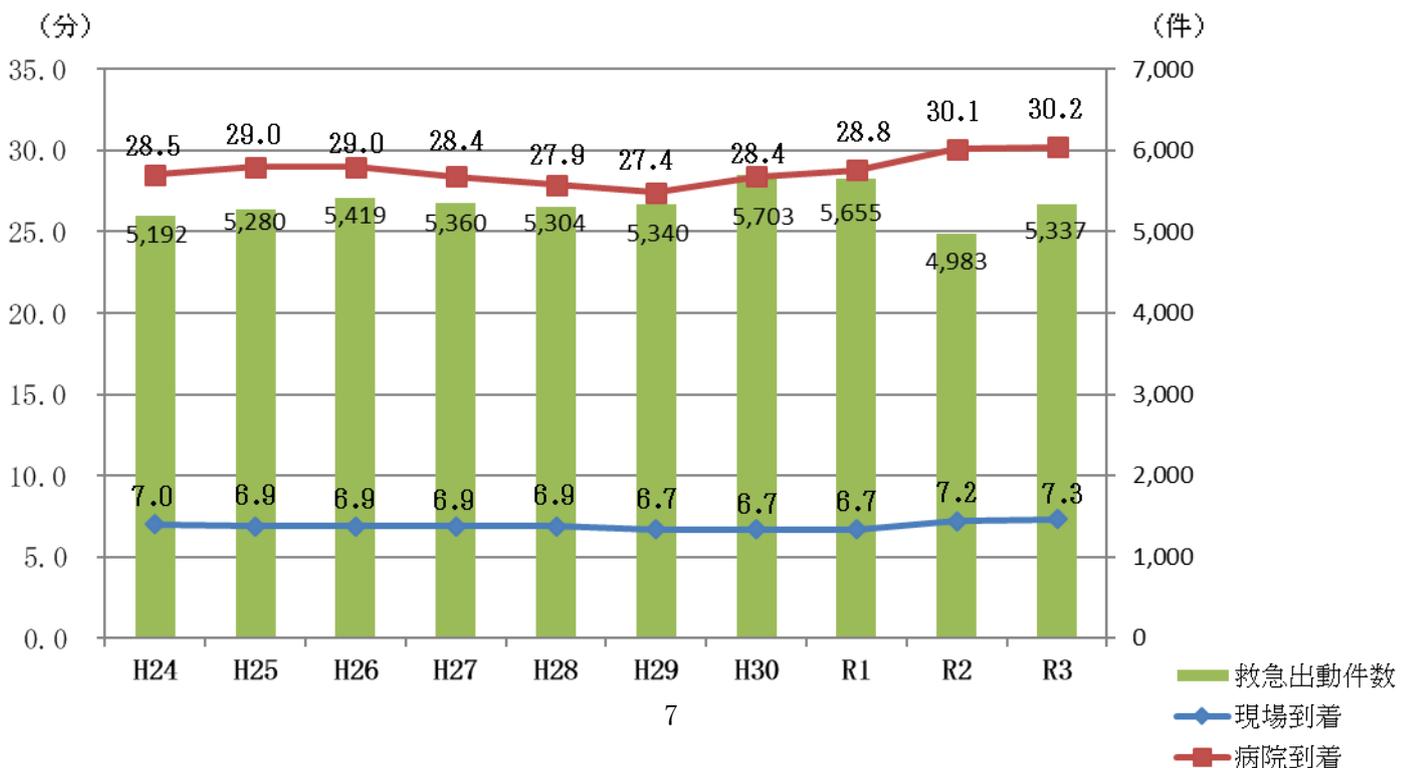
過去10年間の救急の出動状況をみますと、次表のとおりです。

区分 年別	計	増減率 (%)	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	他の消防本部 から援
平成24年	5,192	-2.7	2	0	0	437	58	32	685	33	46	3,482	285	132	5
平成25年	5,280	1.7	7	0	0	480	39	46	650	21	51	3,574	271	141	20
平成26年	5,419	2.6	5	0	0	472	35	35	785	16	36	3,625	263	147	44
平成27年	5,360	-1.1	6	0	0	479	48	39	758	22	36	3,601	288	83	27
平成28年	5,304	-1.0	5	0	0	452	60	44	754	12	43	3,624	267	43	23
平成29年	5,340	0.7	3	0	0	405	44	58	784	19	41	3,670	276	40	10
平成30年	5,703	6.8	5	0	0	368	69	52	820	12	34	3,958	304	81	2
令和元年	5,655	-0.8	10	0	0	380	45	38	810	16	56	3,882	325	93	11
令和2年	4,983	-11.9	5	0	0	275	37	30	803	16	30	3,484	237	66	13
令和3年	5,337	7.1	4	0	0	331	53	33	821	14	23	3,671	307	80	10

8 過去10年間の救急出動件数及び

現場・病院到着平均所要時間の推移

過去10年間の救急出動件数及び現場・病院到着状況をみますと、次表のとおりです。



救助

救助出動件数は 94 件で、昨年と比べ 21 件増加しました。
このうち、救助活動を実施した件数は 49 件、救助人員は 46 人でした。
救助出動件数及び救助人員は過去最多となりました。

事故種別で見ますと、「建物等による事故」が 60 件（63.8%）、「交通事故」が 9 件（9.6%）、「その他の事故」が 24 件（25.5%）という状況でした。

救助出動の傾向としては、安否確認などの「建物等による事故」は引き続き多く発生しており、「その他の事故」の出動が昨年と比べ倍増しました。

1 救助発生状況

全救助件数を月別にみますと、次表のとおりです。

区分 月別	計	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 等	よ る 事 故 機 械 に	よ る 建 物 等 に	酸 ガ ス 事 及 故 び	破 裂 事 故	そ の 他 の
1月	10 (5)	0	0	0	0	0	7 (2)	0	0	3 (3)
2月	5 (2)	0	0	0	0	0	4 (1)	0	0	1 (1)
3月	8 (4)	1 (1)	0	0	0	0	4 (2)	0	0	3 (1)
4月	4 (2)	0	1 (1)	0	0	0	2 (1)	0	0	1
5月	9 (6)	0	0	0	0	0	7 (5)	0	0	2 (1)
6月	9 (4)	0	1	0	0	0	4 (3)	0	0	4 (1)
7月	3 (1)	0	1	0	0	0	2 (1)	0	0	0
8月	7 (4)	0	2 (1)	0	0	0	5 (3)	0	0	0
9月	7 (3)	0	1	0	0	0	5 (3)	0	0	1
10月	9 (6)	0	0	0	0	0	5 (3)	0	0	4 (3)
11月	11 (5)	0	2	0	0	0	5 (3)	0	0	4 (2)
12月	12 (7)	0	1	0	0	0	10 (6)	0	0	1 (1)
合計	94 (49)	1 (1)	9 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	60 (33)	0 (0)	0 (0)	24 (13)
救助人員	46	1	3	0	0	0	28	0	0	14
令和2年	73 (35)	0 (0)	10 (5)	2 (0)	0 (0)	2 (1)	47 (23)	0 (0)	0 (0)	12 (6)
救助人員	33	0	5	0	0	1	21	0	0	6

【備考】（ ）内は、救助活動件数を示す。

2 連区別救助出動件数

全救助件数を連区別にみますと、次表のとおりです。

連区名	計	道泉	深川	古瀬戸	東明	祖母懐	陶原	長根	效範	水南	水野	西陵	原山台	萩山台	八幡台	品野	下品野	山口	本地	菱野	新郷	管外
出動件数	94	3	3	2	5	1	9	4	7	6	9	7	9	3	1	5	2	5	3	3	6	1

3 救助出動・活動件数の推移

過去10年間の救助出動・活動件数の状況をみますと、次表のとおりです。

年別	区分	計	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風水害等	機械による事故	よる建物等に	酸ガス事故及び	破裂事故	その他の
平成24年		71 (41)	2 (2)	22 (10)	1 (0)	0	4 (2)	23 (14)	0	0	19 (13)	
平成25年		67 (30)	2 (2)	30 (10)	1 (1)	0	1 (1)	21 (14)	1 (0)	0	11 (2)	
平成26年		71 (29)	0	30 (8)	0	0	1 (1)	23 (10)	0	0	17 (10)	
平成27年		72 (39)	1 (1)	20 (8)	0	0	3 (2)	34 (20)	3 (2)	0	11 (6)	
平成28年		54 (27)	1 (1)	17 (4)	0	0	1 (1)	25 (16)	0	0	10 (5)	
平成29年		64 (26)	0	15 (4)	1 (1)	0	1 (0)	31 (14)	1 (0)	0	15 (7)	
平成30年		80 (35)	1 (1)	12 (4)	1 (1)	0	2 (1)	51 (21)	1 (1)	0	12 (6)	
令和元年		82 (47)	0	20 (8)	0	0	2 (1)	47 (30)	0	0	13 (8)	
令和2年		73 (35)	0	10 (5)	2 (0)	0	2 (1)	47 (23)	0	0	12 (6)	
令和3年		94 (49)	1 (1)	9 (2)	0	0	0	60 (33)	0	0	24 (13)	
平均		63 (31)	1 (1)	19 (6)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	36 (20)	1 (0)	0 (0)	14 (8)	

【備考】()内は、救助活動件数を示す。

〔2021年度全国統一防火標語〕

おうち時間
家族で点検
火の始末



瀬戸 住宅用火災警報器

検索



住宅用火災警報器の設置は、
条例で義務付けられています。

瀬戸市消防本部

令和3年火災・救急・救助統計

編集 瀬戸市消防本部 消防課
発行 令和4年2月

〒489-0983 瀬戸市苗場町101
TEL 0561-85-0479
FAX 0561-21-6605

U R L ▶ <http://www.city.seto.aichi.jp/bunya/toukei-nenpou/>

E-mail ▶ yobou@city.seto.lg.jp

(統計書中、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。)